ウォーキングマップを活用した ダムの広報の取り組み

松岡友香[1]

[1]土木交通部　流域政策局　水源地域対策室

昨年の西日本豪雨においては，ダム下流地域などにおいて人的被害が発生したが，ダムの役割や働きについて住民の理解が不十分な例が見られ，ダム管理者として理解促進のための広報の重要性を認識しているところである．一方，全国的に土木構造物などを観光する「インフラツーリズム」人気が高まっており，地域振興への貢献のみならず身近な社会資本への理解を促進する契機となるもので，管理者としても積極的な活用が望まれている．水源地域対策室ではウォーキングマップを活用してダムの機能と役割に関する広報を行っているのでその取り組みを紹介する．

キーワード　ダム，広報，インフラツーリズム，異常洪水時防災操作

1.　はじめに

2018年の西日本豪雨や2019年の台風19号など，近年想定を上回る豪雨により，浸水被害や人的被害が多く発生している．報道機関においても連日取り上げられ，住民の関心が高まっている．被害の直接的な原因には河川の決壊や越水等様々であるが，浸水被害が発生した河川の上流のダムで異常洪水時防災操作が実施されていたことから，ダムが洪水を引き起こした人災であるかのような誤解を招いている．

本来，異常洪水時防災操作は，想定を超える雨の場合に実施されるものであり全国で年に一度あるかどうかという程度のめったに実施しない操作であるが，実際には近年の気象変動の影響からか，全国規模でみると度々発生している状況にある．異常洪水時防災操作については，関心の高い一部の人を除いて住民の知名度は低く，ダムの機能と働き，洪水時の操作方法について一般市民に十分伝わっていないことから，誤解があるように思われた．

滋賀県の治水ダムにおいては，建設からこれまでに同操作が実施されたことは無いが，近年の気象変動からいつ起こるとも知れず，ダムの管理者としては広く住民にダムの機能と役割，出水時の操作等について広報することで，想定を超える雨が降った場合にはダムからの放流量増加に備えて異常洪水時防災操作に入る前に安全な場所に避難するなど，住民の避難行動につなげていきたいと考えているところである．

またダム建設については規模が大きく事業費がかさむためか，ダムの役割や機能を理解することなくダム建設が無駄遣いの象徴かのように報道された時代もあった．我々の生活を支えるダムについて住民に広く関心を持っていただき，耳を傾けてもらう，ひいてはダムの維持管理にも関心を向けていただく契機として，ダムの役割と機能を伝えることが必要と考えた．

2.　ダムにおける広報

(1)社会的動向

ダムにおける広報の方法といえば，これまで学校などの来訪者に対し施設見学案内を行うなど，ダムに訪問してくる人に対しての受け身の広報が主体であった．ところが近年，インフラツーリズムが話題となり，ダムにおいても「ダムツーリズム」の人気が高まっている．

国交省では，ダムをはじめとした社会資本を訪問するインフラツーリズムを「インフラへの理解を広めていただくため，非日常を体験するツアーを地域と連携して展開することにより，地域に人を呼び込み，地域活性化に寄与することを目指すもの．」と定義し，「インフラへの理解」と「地域振興」を二つの目標として掲げており，2016年よりインフラツーリズムポー

タルサイトを立ち上げるなど，積極的な展開を図っている．またさらなる拡大に向けて「インフラツーリズム拡大の手引き」を2019年3月に策定されたところである．国交省水管理・国土保全局では，2013年より「ダムを見に行こう」という季刊誌をホームページ上で公開しており，インフラツーリズムの先駆的なものとして，ダムツーリズムの情報発信がスタートされている．各種ガイドブックが発売され，ダムを目的に観光する「ダムツーリズム」で多数の人が押し寄せるダムが登場するなど，ダムツーリズムの知名度も上昇傾向にある．またダム周辺の飲食店では，ダムの堤体を御飯，貯水池をカレーで表現した「ダムカレー」が作られており，ダム観光の楽しみの一つとなっている．ダムカードやダムカレーを案内するガイドブックや，ダムカレーマップなども発行されている．そこで，ダムの役割や機能について積極的に発信するひとつのツールとして「ダムツーリズム」を活用することを考えた．

図 - 1　青土ダムのダムカードとダムカレー

図 - 2　ダムカレーマップ

図 - 3　ダムツーリズム関連書籍

⑵ 県内ダムにおける広報

ダムでは，訪問した人に「ダムカード」を配布している．これはダムマニアから「ダムに行った記念となるカードのようなものがあるといい」という要望を受けて2006年に国交省と水資源機構のダムで配布がスタートしたもので，ダムカードを集めることをきっかけにダムを訪問する人も見られる．2017年現在，都道府県管理のダムや発電ダムも含めて全国各地680箇所程度で配布されており，ダムを訪問しないと受け取ることができない，また一人1枚限定というプレミア感も手伝って，ダムを訪問するインセンティブのひとつとなっている．

流域政策局で管理している治水ダム6ダムのうち，ダムカードを作成している5ダムにおける配布状況を図4に示す．これをみると配布枚数は毎年増加しており，ダムカードの知名度，ダムへの訪問者数は増加傾向にあるが，近年頭打ちの状況になりつつあるようにも見られ，ダムに関心を持つ人は概ね訪問されつくしたように思われる．今後は，これまでダムに関心を持っていなかった人々など広報のターゲットを拡大する必要性を感じている．

⑶ ダムの魅力と広報での活用

余呉湖は年間3万人を超える観光入込客数があるが，余呉湖のダムとしての役割はあまり知られていない．

余呉湖だけでなく他のダムにも観光資源としての見どころは多くある．ダムの多くは山間部にあり，豊かな自然環境や季節の花々、歴史遺産などを楽しむことができる．雄大なダムを眺めるとリフレッシュ効果が得られる．このため余呉湖への来訪をきっかけにダムについて知っていただくというアプローチも有効であると考えた．

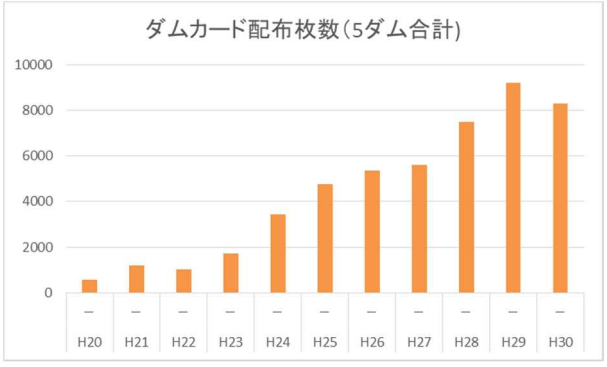


図 - 4　ダムカード配布枚数（流域政策局所管5ダム）

3.　健康しがウォーキングマップの概要

(1)　事業の概要

滋賀県では，健康医療福祉部の「みんなでつくろう！健康しが」プロジェクトのもと，健康増進の取り組みの一つとして，県民の運動習慣の創出に取り組んでおり，2019年度事業において，部局連携事業の募集があった．そこで水源地域対策室では，ダムの魅力を活かしたウォーキングによる健康増進に加えてダムへの理解促進を促す取り組みを行うこととし，ウォーキングマップ作成を検討した．ダムの役割と機能を発信するマップを作成することにより，これまでダムに関心を持っていなかった人にもダムについて知っていただくきっかけとすることとした．

⑵ ウォーキングマップの概要

a) 全体構成

ウォーキングマップでは，気軽に手に取って楽しく歩いてもらえるよう，全体的にやわらかいイメージとなるように親しみやすさを重視し，色調や字体，文字数に工夫をこらし，「ダムウォーキングまっぷ」と命名した．また持ち歩きやすさ，手に取りやすさを考慮し，マップはA3用紙両面1枚を6つ折りにした．

A3サイズ1面を使ったマップ面には，ウォーキングルート上で見られるダム施設を盛り込み，関心を持ってダムを見学してもらえるような工夫をした．

ダムの役割紹介については，管理者として一番伝えたいマップの肝となる部分である．なるべく簡易な表現を心がけたが，異常洪水時防災操作など治水ダムの働きに関する部分については，正しく伝えるには十分な説明が必要で，イラストを使い，わかりやすく表現するよう工夫したが，簡潔に説明することの難しさを感じた．また紙面の関係から掲載できる情報量に限りがあるため，QRコードを掲載し，関心を持っていただいた方にはより詳しい内容を見ていただけるよう，ホームページへと誘導した．

マップに掲載する地域のみどころ情報については，地元観光協会のパンフレットなどを収集し，ダム近傍の観光情報を盛り込んだ．また，掲載内容の確認依頼とあわせて周辺観光施設の食堂などでダムカレーマップを提示してダムカレーを作ってみないかと声をかけてみたが，残念ながら良い返事を得ることはできなか

図 - 5　ダムウォーキングまっぷ　青土ダム(ウォーキングマップ)　(案)

った．

b) 広報印刷物アドバイス

ウォーキングマップの作成においては，見やすく人を惹きつける表現方法などについて有識者の意見を求めるため，広報課が県内部組織向けに実施している広報印刷物アドバイスを活用した．アドバイスではマップに載せたい情報を伝えた上で情報の配置位置，マップをシリーズ化して通し番号をつけることでほかのダムも行ってみたくなるなど，多くのアドバイスをいただき，大変有意義であった．

c) 一般読者の視点

作成途上では，ダム周辺地域住民の方やインターンシップの学生にも意見を伺った．文字が多すぎて読みにくい，表現が難解など，率直な意見をいただいた．そこでダムについて学ぶQ&Aでは，結論を先に端的に記載して後ろに詳細説明を加えるなど，メリハリをつけた表現とした．

図 - 6　A3　6つ折りマップ

d) ダムマイスターとの連携

一般の方にはとっつきにくいであろうダムの世界に関心を持ってもらおうと，県内在住のダムマイスターの方に協力を依頼した．ダムマイスターは，ダムについての知識が豊富なダム愛好家や専門家で，(財)日本ダム協会が任命している．広く一般の方々にダムの実態，役割，魅力などについて伝える役割を担っていただいている．ダムマイスターには各ダムのオススメポイントを挙げていただき，ダムの豆知識のような情報を付加することで施設への関心を促す工夫とした．これは各ダムの特徴を示すものでもあり，他のダムへも訪れて比べてみたいという動機付けにもなると考えた．

(3) 進捗状況

2019年度は青土ダム，日野川ダム，姉川ダム，余呉湖ダムで作成予定であり，2019年末現在，マップ案は完成し印刷発注準備を行っているところである．年度内には印刷を完了し，春先の行楽シーズンにはダムカードとともに各ダムで配布できる状態となる予定である．また，観光協会や周辺観光施設でも配布をいただける見込みで

図 - 7　ダムウォーキングまっぷ　青土ダム(表紙)　(案)

ある．管轄する各土木事務所での配布も予定しており，土木事務所職員の皆様にもぜひ手に取っていただき，来訪者にも積極的に配布いただきたい．またウォーキングルート図の部分については，案内看板として現地に設置を予定している．

また2020年度には，残る宇曽川ダムと石田川ダムにおいても作成をめざしている．

4. 今後の展開

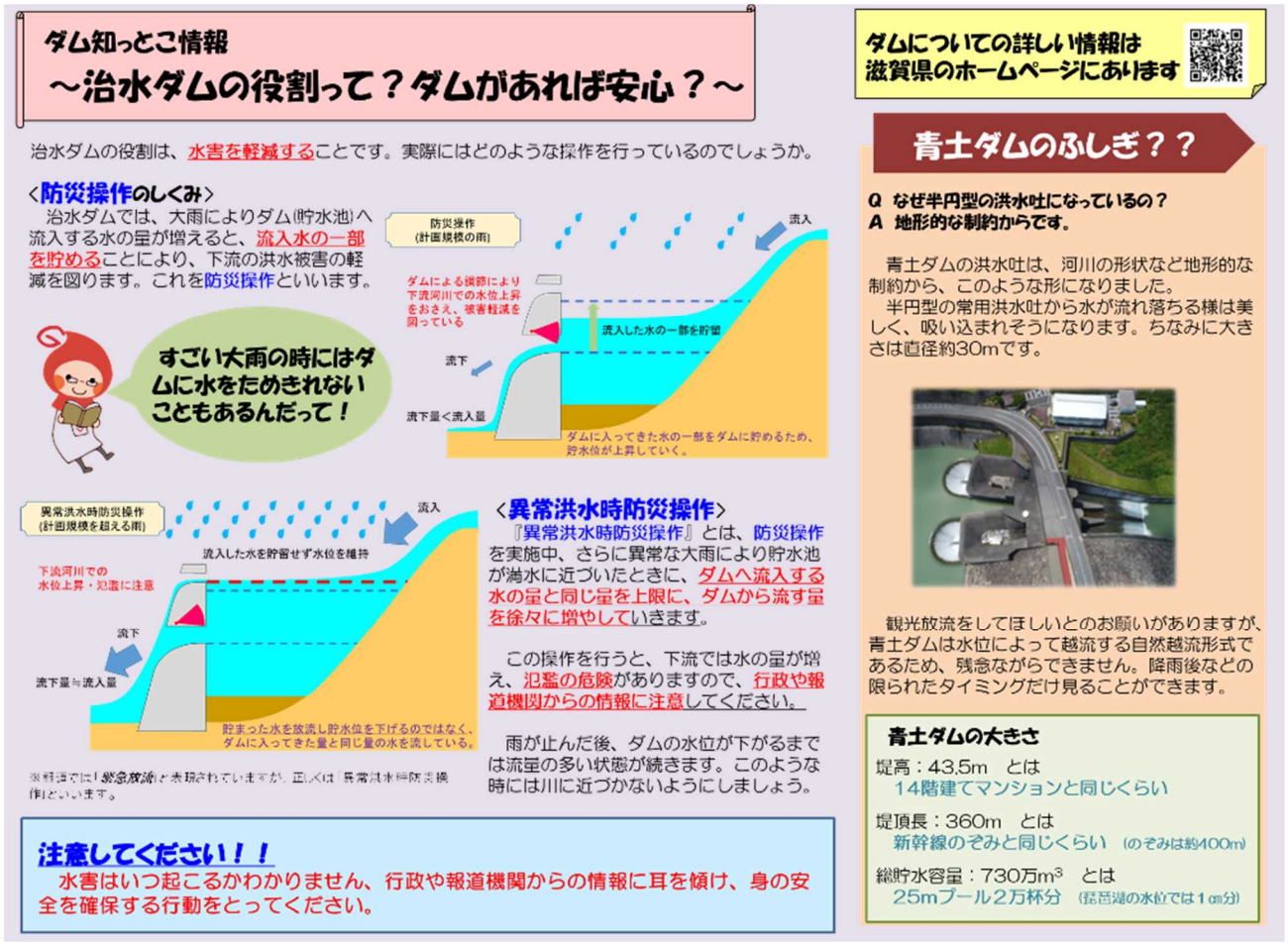
健康しが事業ではウォーキングアプリBIWA-TEKUを活用したウォーキング啓発を行っており，ウォーキングマップの完成と合わせてダムウォーキングについてもアプリ上でGPSを用いたウォーキングルート案内を実施する予定である．発信ツールの多さは部局連携実施の大きなメリットである．ウォーキングマップとあわせて地域の魅力や観光情報を盛り込んでいくことにより，よりダムを訪問する人の間口を広げることができ，周辺地域の活性化にも寄与できると考えている．

ダム管理事務所においてはダムカードの配布に要する手間が負担となっているが，ダムの理解者を増やすべく協力いただいており，地道な努力によりダムへの住民理解につながっていると考えている．

今回はインフラツーリズムを活用してダムの機能と役割を伝えることを主な目的に取り組んだが，本来のインフラツーリズムの目的には「インフラへの理解促進」と「地域振興」が掲げられている．少しでも地域振興に貢献すべくマップの作成中に資料収集と内容確認に観光協会や周辺観光施設を訪問したが，インフラツーリズムの知名度がまだ地域に浸透していないためか，あくまで「ダム情報のマップ」を作成していると受け取られた印象だった．地域振興とインフラの理解促進，2つの目的を合わせて取り組むことで相乗効果が期待できることから，インフラツーリズムを利用して来訪者を呼び込もうという地域の機運が高まることを期待したい．

水源地域対策室では，現在ダムカードのない余呉湖ダムにおいて今年度中にダムカードの作成を予定している．また，ウォーキングマップとは別に県内のダムを周遊するガイドブックを作成中である．ウォーキングマップとこれらの広報媒体を活用して今後も積極的なダムの広報に取り組んでいきたいと考えている．

マップ案作成中の2019年8月，滋賀県で With DAM Night in BIWAKO が開催された．これはダム工学会が主催するダム愛好家がダムについて語り合うイベントで，



図－8 ダムウォーキングまっぷ 青土ダム(裏)(案)

滋賀県では初の開催となった．ここで滋賀県のダムについて紹介するとともに，ウォーキングマップの取り組みについても紹介した．「ダムを歩いてみよう」というコンセプトについて，おおむね好意的に受け入れられたように感じた．マップ完成時にはダム愛好家からのSNSなどを通じた拡散，宣伝効果も期待しているところである．

県民の運動習慣の創出を目的としたウォーキングの場としてダムを有効活用することで，今までダムと無縁であった人もダムへの関心を持っていただき，ダムの機能と効果を正しく理解していただくことで，出水時の避難行動を促し，水害による犠牲者を減らすことにつながると考えている．今後も情報発信のあり方のひとつとして，インフラツーリズムの人気を活用していきたい．

また今回はダムの特性を活かしたウォーキングによる健康づくりを通じてダムの広報に取り組んだが，他のインフラについても，それぞれ特性をうまく活かした広報を検討してみていただければ幸いである．

謝辞：ダムマイスター ピンクのうさぎさん，観光協会，観光施設，ダム周辺地域の皆様に感謝いたします．

参考文献

1) 国土交通省：令和元年度国土交通白書
2) 国土交通省：インフラツーリズムの拡大の手引き―暫定版―
3) ダイヤモンド社はじめてのダム旅入門ガイド